



『全ては子供たちのために』

杉小だより

令和4年 1月11日発行 第13号 文責：校長

塩竈市立学校の取組
「挨拶」「くつならば」
「美しい言葉」
杉小プラスワン
「きれいな黒板」

しおがほ「ふれあい」運動

ふんぶんから「早ね・早あき・朝ごはん」

みんなで決める「テレビやゲーム」

あたたかく語り合おう「夢タイム」

いっしょに取り組む「体カブクリ」

新年 明けましておめでとうございます

校長 秋山 治美

例年になく、雪が多い冬休みとなりました。寒さも厳しく体調を崩された方もいたのではないのでしょうか。新型コロナウイルスも再び感染拡大の兆候が見られ、まだまだ心配な毎日が続きます。学校では感染防止の対策を前年に引き続き行ってまいります。「検温カード」による毎朝の健康チェックも継続しますので、ご面倒をお掛けしますが、ご家庭での記入に協力をお願いいたします。

さて、今年は寅年です。本日の集会では、「十二支の順番」について子供たちに話をしました。「なぜ、あんなに小さいネズミが一番なのか」「トラは走るのが速いのになぜ三番なのか」など、昔からの言い伝えには、教訓が込められているのだなと思いました。「十二支」では「寅」の文字を使いますが、ことわざなどは「虎」の文字を使うことが多いようです。「虎穴に入らずんば虎子を得ず（こけつにいらすんばこじをえず）」はよく聞くことわざです。「リスクを冒さなければ成功を得ることが難しい」という意味なので学校教育に当てはめて考えるのは適当ではないように思います。一方、今年1月4日の証券取引所で話題となった「虎千里を走る（とらせんりをはしる）」ということわざがあります。

これは、「トラが一日のうちに千里もの距離を歩き、さらに戻って来ることができる」と言われていることから、活力に満ちた、行動力のある様子を表すのだそうです。また、その意味から親の子供を思うがゆえの行動力をたとえることが多いということです。



去年の干支は「丑（うし）」であり、動物で表す「牛」は昔から農作業などの労働力として人間の生活に役立っていたことから、忍耐強くコツコツと努力することを象徴していました。2021年の一年間、コロナによって様々な制限がある中で、杉小の子供たちや教職員は、「今できることを最大限に行おう」と目標に向けてコツコツと努力を続けてきました。制限はあるものの、2022年は、今まで貯めてきたエネルギーをトラが千里を走るように出し切る年だと捉えています。そして、子供に寄り添い、子供のために力を惜しむことのない教職員であるよう、学校一丸となって頑張ります。保護者、そして地域の皆様、本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

町内会長の皆様との顔合わせ会

新型コロナウイルス感染症の拡大により先延ばしになっていた「町内会長の皆様との顔合わせ会」を12月24日に行いました。当日は、11地区の町内長の皆様にお越しいただきました。

子供たちの各地区での様子や危険箇所、「学校だより」の配付方法など、貴重なご意見をたくさんいただきました。

学校では知り得ない貴重なお話を伺うことができ、非常に有意義な時間となりました。早速改善に取り組んでまいります。

以前にもお伝えしましたが、杉の入小学校は、本年度からコミュニティスクール（以下CS）となりました。CSでは、「地域」「保護者」「学校」が一体となって、将来の地域の担い手となる子供たちを育てていくことをねらいとしています。今後も町内会長の皆様をはじめ、地域の皆様のお力をお借りする場面が多々あるかと思っております。今後ご協力をお願いいたします。

紹介します

宮城県が推進している事業の1つであるスクールサポーター制度を杉の入小学校でも活用できるようになりました。

子供たちには、長期休業後集会で「見守りサポーター」として紹介しました。

できるだけ多くの大人の目で子供たちの成長を見守ることをねらいとしている制度で、子供たちが学習に集中して参加したり、友達とより良い関係を築いたりすることができるよう見守ってくださいます。

【見守りサポーター】
高橋 利視 さん
小林 和江 さん



